

四天王寺きたやま苑

継続する新型コロナウイルス感染症対策の中、リモート面会の実施、2週間毎の職員PCR検査及び週2回の抗原検査等を実施し、感染の早期発見に努めました。11月には特養フロアに新型コロナクラスターが発生しましたが、感染症対応訓練や、積み重ねた経験を元に大きな拡大に繋がらず、他サービスも一部制限を行いながらも休止なく運営する事ができました。ポストコロナを見据えて感染状況の合間を縫って、9月にはナイター野球観戦、10月にはいも堀りといった外出レクリエーションを実施しました。

～事業活動報告～

(1) 『安全と安心の推進』

誤嚥性肺炎の入院者が増加する中、訪問歯科と連携して、退院者を中心とした嚥下機能評価の導入や、歯科衛生士による嚥下困難者を対象とした職員研修を実施しました。機能訓練では、イブラスジムと連携し、新たにビジョントレーナーの資格を創出取得し、Blazepodの機器も導入し、転倒予防、認知機能の維持向上に努めています。また、ZOOMを駆使して、外部講師による苑内研修を開催し、職員の技術向上に努めました。

(2) 『職員能力の向上』

事業所内にて「KAIZEN活動報告会」を継続し、今年度は法人の実践報告会に2チーム応募し、2チーム共受賞する事ができ、職員の自己向上の意欲を維持する事ができました。また、ZOOMにて職員のご家族を招待した職員参観では15名の参加があり、年間行事の紹介やご利用者と触れ合って頂く中で、業務の意義と理解を深めて頂き、働く職員への家庭内サポーター育成を心掛けました。

(3) 『事業の継続性と地域連携』

事業継続計画が未だ完成しておりませんが、研修のみでなく感染症発生時の対応実施訓練を行い、クラスター発生時にも適切に対応ができ、拡大の防止に繋がりました。区社会福祉協議会の災害訓練にも参加し、地域の方との意見交換を行いました。また、近隣保育園とは敬老のお祝いやビデオレターを頂いたお礼に、ご利用者が作成したクリスマスプレゼントをお返しする双方向の活動を行うことができました。大学との交流も継続し、学生による風呂場暖簾の作成と設置、季節毎の祝いの作品の展示、ZOOMにて利用者と学生との交流会も開く事ができ、制限のある中でも開かれた施設を目指しました。

～改善活動～

(1) 業務内容の改善

赤外線見守り機器の導入に関しては補助金申請で選に漏れましたが、引き続き必要内容を再確認して次年度も検討していく予定です。

(2) 委員会の役割の確認

新型コロナ対応の中、研修委員会や広報委員会以外の活動は停滞しましたが、再度体制強化を図っていきます。